



14TH UNITED NATIONS CONGRESS  
ON CRIME PREVENTION AND CRIMINAL JUSTICE  
KYOTO, JAPAN 7 - 12 MARCH 2021



フランク J. ポポリーノ 博士

基調講演

世界保護司会議

2021年3月7日京都

保護観察における  
ボランティア  
の将来

## なぜボランティアに価値があるか？

- 歴史的に、ボランティアは、社会内における犯罪者の支援と監督の概念を生み出した
  - 1841年アメリカ ... ジョン・オーガスタス; 保護観察の父
  - 1887年イギリス ... 警察裁判所のミッション
- 組織的に発展した犯罪に対する取組を改革する原動力
- 犯罪者に対する理解と支援の原点に立ち向かってきた
- しかし、ボランティアの貢献は、一般的には不可欠であるとか、根拠に基づくものとは認識されていない。

ならず者も  
“理解、親切、そして持続的な倫理観を通して”  
立ち直れると信じる

World Congress for Community Volunteers



## 保護観察実務 ... 限界と制約

欧米では

- 保護観察のスタッフを「変革の代理人」に変える努力は、明確な影響力を示すのに苦心してきた
  - STICS; EPICS; STARR; Citizenship; PGI ...etc.
- 保護観察実務を体系化し、新たなスキルを教える時に何が起きたか？
  - 新たなスキルを習得できる者もいれば、あまり習得できないスタッフもいる
  - 取組の姿勢がかなり異なる
  - 重要な「人間関係能力」の変化…しかし持続しない
  - 「治療的連携」にあまり注目しない
  - 抵抗に直面したとき…容易に監視/管理に戻る
- 最近の評価研究では、特に「スケールに合わせる」場合には、再犯に対する影響はほとんど示されていない。
  - E.G., Krimstics, Sweden

World Congress for Community Volunteers



## 現実世界の保護観察実務

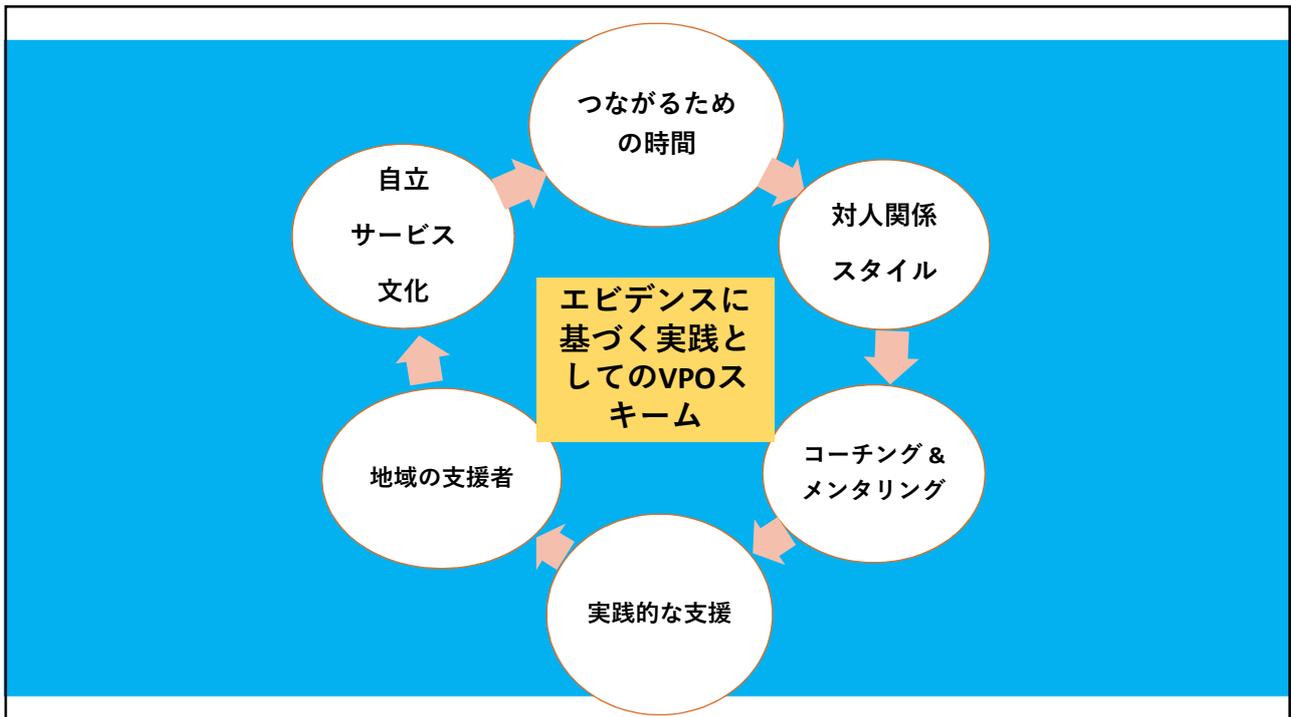
- 「集団保護観察」…管理不可能な事件数
- 新しい「経営者主義」…文書化 v s 関連性に焦点をあてる
- 我々は賢明かつ一貫して適用されなければならない一連の「中核的矯正スキル」の習得を期待できるか？
- 現実には保護観察官に過度の要求をしている可能性がある ...
- それに加えて ... 犯罪者の立ち直りを導くには、「個人の変化」へ焦点を当てる以上のものが必要

World Congress for Community Volunteers



現実世界の保護観察実務	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 立ち直りのパラダイムの核となるメッセージは、「更生」は1つのタイプではなく、以下のような複数のタイプがあるということである。</li> <li>• 社会的 ... 受容, 所属 及び新たな機会</li> <li>• 法的 ... 有罪判決の烙印や除外の効果を排除する</li> <li>• 道徳的 ... 善良な市民として感謝料及び償還金</li> <li>• ボランティアは、このアイデンティティの変化を生み出し、強化するための、公平な「ロールモデル」変化を促す者、強化因子としての役割を果たしている。</li> </ul>	<p data-bbox="1050 533 1412 568">アイデンティティの変化</p> <p data-bbox="1050 607 1412 719">私たちが急がせたり強制する事ができないゆっくりと進化するプロセス！</p>
<p>World Congress for Community Volunteers</p>	

保護観察の実務におけるボランティアの核心的役割	保護観察実務が求めるものをボランティアが担えるか
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 短期的すぎたり、リソースが不足している、十分に調整されていない付加的ボランティアのスキームは、不足していたりするボランティアのスキームは、ほとんど効果がない傾向がある。</li> <li>• しかし、日本の保護司モデルは...地域のサポートの正に「背骨」である。</li> <li>• ボランティアのミニ軍隊のエネルギー、献身、創造性を活用する。</li> <li>• 「恩返しをしたい」という人間の精神</li> <li>• 日本の保護司に触れたことで、成功の鍵となる要素は何かを考えるようになった。</li> </ul>	



つながるための時間

一度に少数の保護観察対象者しか担当しない利点

保護司は、人生の中でも満足し、比較的にリラックスしたステージにいる。

アドバイスや相談を始める前に、犯罪者を知るために彼らの話を聞く時間

モチベーションを高める柔軟な対応

個々の犯罪者にとって都合の良い「時間」と「場所」

つながるための時間

強制的な関わり合いではなく、異なる経験や背景を持つ二人の関係が自然に呼び起こされ、それぞれが相手から学ぶことができる。

時が経てば信頼が生まれ、信頼は向社会的影響力を高める燃料となる。

犯罪者は、おそらく生まれて初めて、純粋に思いやりのある相手を経験する。

保護司は、他の人に良い影響を与えたという高揚感を得ることができる.....その高揚感は、彼らが寄り添う犯罪者にも伝播する可能性がある。

対人関係スタイル

保護観察の実践に関するほとんどの民俗学的研究では、特定のスタイルとスキルのブレンドが鍵となることが明らかになっている。

5つの次元（ルイス、2016年）...受容、尊重、支持、共感、信念

犯罪者は、敬意と真の関心を持って話を聞く必要がある。

日本で出会った保護司の方々は、その成熟度と人生経験の幅の広さもあってか、私には、楽にまた自然に、穏やかで反応の良い人間関係のスタイルをにじませていた。

真に信頼できる「メッセージの贈り手」

安全性を確保し、意味のある機密情報の自己開示を促すことができる。

コーチング & メンタリング

**コーチ** = 意欲的な現在志向の仕事又はパフォーマンス；現在あなたが直面している困難を対処するのを助ける

**メンター** = 意欲的な未来志向の者；あなた，そしてあなたの将来と長期的な発展を気にかける。

**メンター**は「話を聞いて理解してくれる」；助言し、知識や経験の共有し、優しく教え、自己発見を促す中「私の自信をつけて」くれる。

**コーチ**はある望ましい最終結果に誰かを指し示すことにおいて、より指示的である場合もある。

コーチング & メンタリング

犯罪者は、短期的に「明確で現在の危険」を引き起こす可能性のある問題に対処するための**コーチング**を必要としている…

しかし、立ち直りを支援するものは、希望を維持する前向きな資質、自己効力感を強く持ち、自分のアイデンティティを再定義することであるため、長期的な**メンタリング**を必要とする。

犯罪者は、新しい意味のために、また向社会的な正統性を得るために、少なくとも個人的な願望の一部を達成しなければならない。

私が出会った 保護司 は、**コーチ**と**メンター**という二重の役割を明確に理解していて、一方の役割から他方の役割へと簡単に移行することができた。

実践的な  
支援

良い保護観察実務では、タイムリーで具体的かつ有意義な実際の援助に注意を払う必要がある。

保護司は、これを提供することができるようになっている。

立ち直りは、「代理人」の感覚が現れることによって促進される...個人的に障害や懸念を克服し...それは、その後、さらなる解決に資する。

保護観察実務は、文脈に即した個別化された選択肢を提供するのではなく、標準的な解決策で「導く」傾向がある。

保護司は、適切なタイミングで適切な方法で適切なサポートを提供するために、コミュニティ内のつて、人脈、影響力を利用することができる。

「実践的なヘルパー」としての保護司は、おそらく最も重要な役割の一つであろう。

地域の従  
事者& 奉  
仕者

コミュニティの関与は、完全な社会復帰に不可欠である。しかし、コミュニティはしばしば犯罪者を拒絶し、烙印を押し...コミュニティの一部としてではなく、犯罪者を隔離することを望む。

矯正サービスが擁護されるほど、コミュニティは押し戻そうとする

尊敬される地域社会の市民やリーダーとして.....地域社会での地位とつながりを持ち...保護司は、この感情に対抗し、「共同責任」を促進する。

保護司は地域の親善大使としての地位を確立し、無数の方法で地域に働きかける。

地域社会に対応した社会復帰哲学の大使としての勢い...地域的及び全国的にも。

自立  
サービス  
文化

保護観察サービスは、しばしば、クライアントに献身的なサービスを提供する文化を確立し、それを維持することに苦慮している。；スタッフの採用は継続的な課題である。

日本における保護司の重要な非公式の機能は、他の保護司を募集することである...

保護司制度は、効果的に自立する。

保護司は、地域的にも全国的にも、構造化されたダイナミックな全国保護司連盟のメンバーとして認知されている。

かなり少ない保護観察専門職員の十分なサポートとともに、保護司自身のネットワークを継続的に構築することは、保護司スキームを現在のダイナミックなものにし、将来に向けて持続可能なものにしていくことができる。

結論

保護観察実務が求めるものをボランティアが担えるか

ここ数年、保護司スキームの伝統の中で自然に発展してきた犯罪者に焦点を当てたアプローチは、おそらく「優しすぎる」と反論されてきた。

日本社会の都市化、地域社会の分断、高齢者の経済的苦境の拡大などによる新たな保護司の採用の難しさ

日本社会は変化しており、保護司スキームはその変化に合わせて適応していかなければならない。

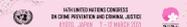
## 結論

しかし、日本の保護司モデルは、革新的で広範な根拠に基づいた社会内矯正の要素として組み込まれており、可能な限り賞賛され、見習われるべきである  
…世界中において

刑事司法の実務は、優しい・厳しいと見られるべきではない...

それは賢く、エビデンスに基づいた情報を提供し、地域社会に対応しているかどうか... そうでないかのどちらかです。

World Congress for Community Volunteers



14TH UNITED NATIONS CONGRESS  
ON CRIME PREVENTION AND CRIMINAL JUSTICE  
KYOTO, JAPAN 7 - 12 MARCH 2021



ありがとうございました!